



戦後 80 年。平和の祈り、願い、想いを糸満から

沖縄戦終結から今年で80年。激戦の記憶を風化させることなく、未来へ継承するため、市内各地では平和への想いを込めた、さまざまな取り組みが行われました。

6月14日(土)、平和祈念公園で行われた第30回糸満市平和祈年祭。遺族会や子ども会などから約100人が参加し、慰霊の日を前に、平和の礎をきれいに拭き上げた子どもたちは、命の重みと向き合い、平和の尊さを肌で感じました。また、平和の語り部育成事業研修生による絵本の朗読や、平和の祈りパフォーマンスも披露され、未来を生きる世代に向けたメッセージを歌やダブルダッチで表現しました。

6月22日(日)には、糸満市戦後80年平和イベント・ミニライブがシャボン玉石けんくくる糸満で開催。平和劇「残された白梅学徒隊」では、戦火の中で生きた少女たちの姿が力強く描かれ、来場者の胸を深く打ち、その後、糸満市戦後80年平和祈念合唱団による合唱、かりゆし58によるアコース

ティックライブでは、平和への想いが歌声に乗り、会場に響きました。また、同日夜、平和祈念公園で「平和の光の柱」が実施され、祈りを込めたサーチライトが夜空をまっすぐ照らしました。

迎えた6月23日(月)、慰霊の日。平和祈念公園では戦後80年沖縄全戦没者追悼式が厳かに執り行われました。内閣総理大臣、衆参両院議長、最高裁判所長官と三権の長が30年ぶりにそろって参列。約4000人の参列者と共に、戦没者の御霊みたまに黙祷をささげ、恒久平和への願いが会場全体を包みました。また、当日は朝早くから多くの人が平和の礎や慰霊碑を訪れ、在りし日をしのお姿が途絶える事はありませんでした。

平和とは特別な日だけ語られるものではありません。平和の礎や慰霊碑を訪れ、花や線香を手向ける。そのような日々の積み重ねが、平和をつないでいくのです。もう80年。それでも、まだ80年。これからも平和な日々をいつまでも。